



扉・土倉庄三郎肖像  
『評伝 土倉庄三郎』より引用



土倉庄三郎銅像





瀧大村上川郡野吉

搬運車地





第一期東熊野街道（川上村伯母谷）





第二期東熊野街道（上北山村西原）







扉・土倉庄三郎肖像

### 五社墜道開鑿ニ對スル概算説明

川上村西河ヨリ中莊村宮瀧ニ至ル里程比較

一 東川新子廻リ

三里二十一町

一 墜道開鑿後

二十五町 (此内墜道約十一町)

一 墜道開鑿後運賃ノ低減 壹ケ年約 四萬八千圓

一 全上自動車乗車賃ノ低減 壹ケ年約 貳萬五千圓

合計 壹ケ年低減金高七萬參千圓

一 交通ノ發達ハ更ニ時間ノ經濟ト敏活ナル往復ニ依ツテ商取引キヲ初メ萬般ニ及ボス所得ハ無量計リ知ルベカラズ

### 輸出入貨物運賃低減ノ概算

一 總輸出入駄數 一ケ年約 拾貳萬駄

一 墜道開鑿後運賃ノ低減 一ケ年約 四萬八千圓

但東川新子廻リ運賃ニ比較シ墜道直通ニ依ル運賃低減ノ差

一 駄ニ付 金四拾錢

### 自動車乗車賃金低減ノ概算

一 東川新子廻リ西河ヨリ宮瀧迄 一人ニ付 九拾錢

一 五社墜道直通後西河ヨリ宮瀧迄 一人ニ付約 貳拾錢

此乗車賃差額低減七拾錢 一日五十人往復ヲ假定

壹ケ月乗車賃差額低減 貳千壹百圓

更ニ壹ケ年貳萬五千壹百圓ノ差額低減ス

一 以上ノ積算ニ依リ村民ノ受クル所得ハ實ニ莫大ニシテ一日早ケレバ一日ノ利益アリ即チ墜道開鑿ノ費用ハ數ケ年ノ内ニ廻收スルヲ得ヘシ

一 墜道開鑿費積立金及收入額左ノ通り

一 五社墜道開鑿積立金貳拾五萬四千七百八拾圓

一 四大林業家寄付額金拾萬圓

一 川上郷材木同業組合ヨリ寄付金四萬五千圓

一 中莊村ヨリ寄付金壹萬圓



宇野嶺開鑿碑

物土宜便行旅通商實富國之第一策也。有識之士必盡力于此。夫和州為五畿之一。而  
古野宇智二郡峰巒深谷崎嶇險行人困苦。况於搬運乎。土豪  
大北作決。節掘內三帶等皆奮力于開鑿。郡長玉置高良君能贊而督之。其功為地  
其一也。嶺屬宇智郡三在村。為諸勢。廟孔道。峻坂十餘町。行旅訴苦。於是眾謀開鑿。走其  
良君可之。乃使玉置卓司督役。後以明治十七年五月二十五日起。以明年六月二十一  
又延之。西達五條驛。東達吉野郡楠井村。二十六年六月二十五日。事完。一連嶺。九  
千百五十步。削峻崖。鑿巨石。通溝。漬修橋梁。或設伏梁。路之近河者。別創新道。以遠  
壹萬參千有餘。圓土倉等四氏。所義捐者。居多。於是行旅并喜。車馬來往。物貨流通。而  
兵眾偉其功。將碑道左。以示無窮。君求請銘。且曰。非諸氏耐忍奮勵。則安能經此  
餘之金。以成斯功乎。又安能不急。以抵成乎。余曰。然古人有言。夫上立德。其  
便行旅。則功也。而其實德也。泰之何其不銘。以興後人乎。乃銘曰。  
削斯峻坂。夷斯嶺前。塗稍坦易。地無險塞。物貨流通。民人安息。人謂之  
吾謂之德。維德維澤。為人為國。三尺貞珉。可銘以勤。以誌其勞。

浪華

藤澤恒撰文  
柏垣蘭書

宇野嶺碑



宇野峠（五條市三在）

栗谷小屋 ← → 西谷橋  
(土倉古道)

三重  
宮林



西谷 牛糞杉



土倉屋敷跡



大滝ダム（川上村迫）





土倉街道 本沢川



土倉街道 大台辻への登り



西谷 作業小屋跡と牛糞杉



西谷の作業小屋跡前をゆく街道。  
小さな切り遠しが開通当初の幅  
を教えてくれる。右手に見える  
鬱蒼とした杉林が牛糞杉。



土倉街道 西谷沿いの石垣











沖見峠に向かう街道。構図の焦点で峠を迎える。

土倉街道 沖見峠



土倉街道 崩落



東熊野街道 五社峠道 (吉野町檜尾)



北側に残る短い旧道。左下から中央に向かって登っていくのが簡易コンクリ舗装の現道

第一期東熊野街道 五社峠道 (吉野町菜摘)



第一期東熊野街道 五社峠道（川上村西河）





路面に付けられた排水渠



第二期東熊野街道 五社峠道 (川上村西河)

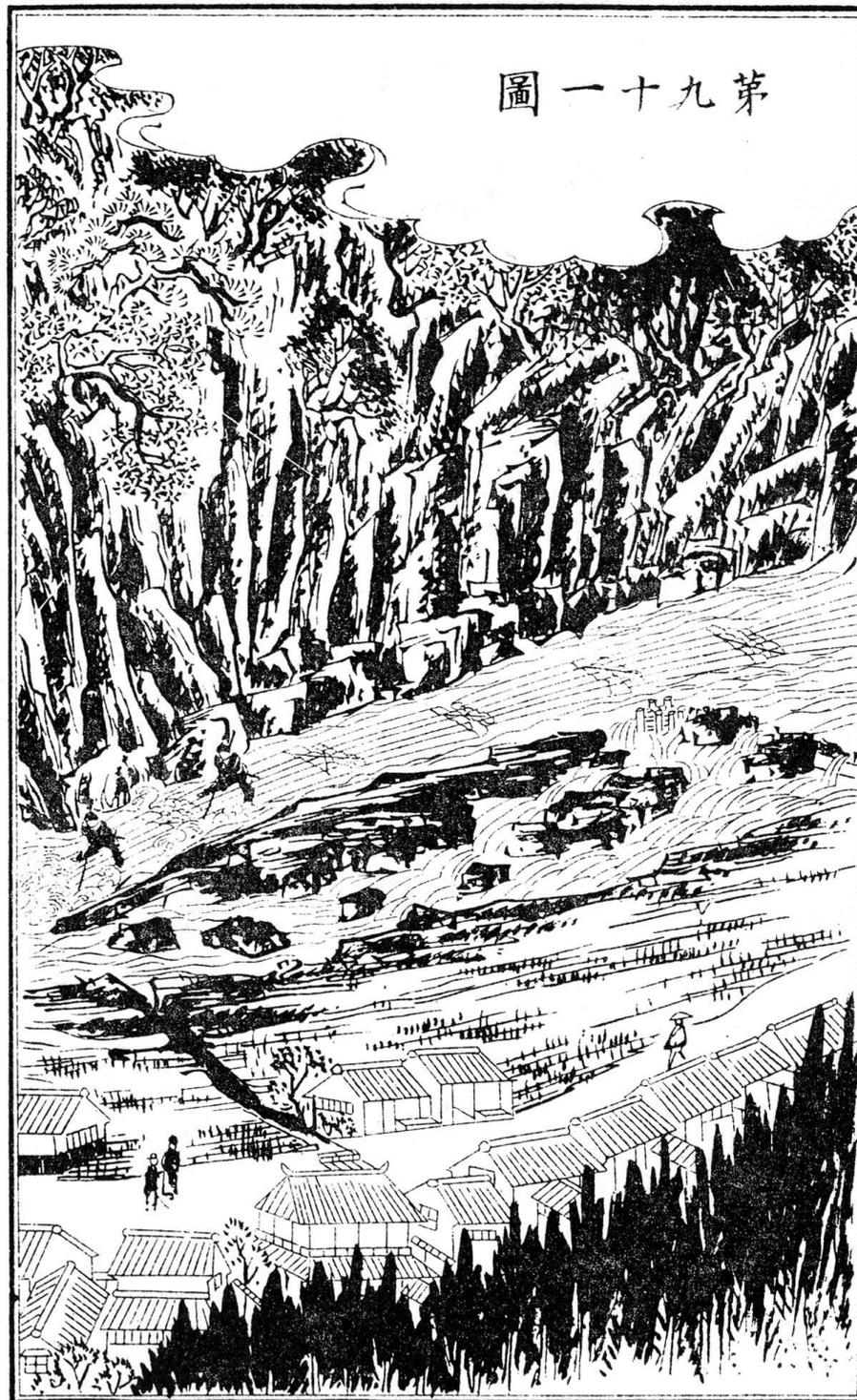




土倉翁造林頌德記念碑



川上村大滝





川上村柏木  
(東熊野街道変遷)



川上村柏木（第一期東熊野街道）



紅葉峠（第一期東熊野街道）





川上村伯母谷（第一期東熊野街道）



街道を横切る滝（第一期東熊野街道）



大崖の際をゆく（第一期東熊野街道）



大曲沢からさらに登る（第一期東熊野街道）



伯母谷橋跡（第一期東熊野街道）



県道に残る旧街道



伯母谷全景



伯母峰峠（川上村側）



伯母峰峠（上北山村）